

第2次北中城村観光振興基本計画

<概要版>



令和6年3月

「生き生きとしたライフスタイルを探しにいく

ウェルネスビレッジ “きたなかぐすく”」

高台からみえる朝日や夕日の美しい景色、豊かな自然の恵みと地域の人たちの優しさにあふれた村。

歴史的文化財の中城城跡や中村家住宅をはじめ、戦前の沖縄の暮らしが息づく風景、遺構。

地域の伝統や風習など歴史・文化、人のあたたかさは今も残されている。

その中に時代の経過とともに、外国人住宅を活用した雰囲気のあるお店が増え、ライカム地区の開発で村はまた新たな楽しみを生みだしている。

”きたなかぐすく”での滞在は、まるで自然と一体化するような感覚をもたらし、心と体を整え、日々のストレスから解放され、内側から輝く健康と幸福を手に入れる。

緑豊かな大地に囲まれ、自然と調和した暮らしの中で、心と体が癒される。

ここでは、木々のざわめきと鳥のさえずりが心地よい BGM となり、日々の喧騒を忘れさせてくれる。

訪れる人が、また来たい、帰ってきたくなる、そんな自分探しの旅の目的の場所になっていけるよう、魅力を継承・発信していきたい。

基本理念・大切にしたいこと

<基本理念>

「地域の暮らしを大切に、

村民も来訪者も事業者も幸せを感じる村」

- ・北中城村は、古来の自然・歴史・文化とライカム地区の開発など新しいまちが融合された場所であるため、地域の文化と村民の地域への誇りを第一に、子どもから高齢者まで誰もが、心と体が健幸で平和に生活し続けることのできる村民の暮らしを重視した観光地を形成し、観光地づくり＝地域づくり（暮らしの質の向上）につながる“まちづくり観光”を推進します。
- ・村内の暮らしの中で紡いできた歴史・文化、自然・景観を基盤として、農業や漁業などの生業、食、健康、学び、生きがいなど地域の魅力を高めていき、その場所へ暮らすように旅をする来訪者に対して、地域住民との交流を通じた「ここでしか味わえない本物の体験（幸せ）」を提供することで観光客の満足度が向上につなげます。
- ・観光客の満足度が向上することで、地域の魅力が高められ、事業者の雇用の創出など待遇の改善などの地域経済が発展するとともに、事業者も働きたい場所となり、事業者の満足度の向上につなげます。
- ・村民、来訪者、事業者の三方よしの社会を実現していくため、行政や観光協会、観光関連事業者をはじめとし、商工会や農業・漁業団体、自治会・村民など村内の観光振興に資する関係者がワンチームとなって、観光客に対しておもてなしをできる環境を創出していきます。

<大切にしたいこと>

 歴史・文化や、自然景観など地域資源

 健康長寿やウェルネスなどの北中城村の地域特性

 人のつながりを大切にしたコミュニティ・住みやすい環境

 村民、事業者、来訪者の三方よしとなり、村民の暮らしの向上する持続可能なまちづくり観光

1. 計画の概要

(1) 計画の背景

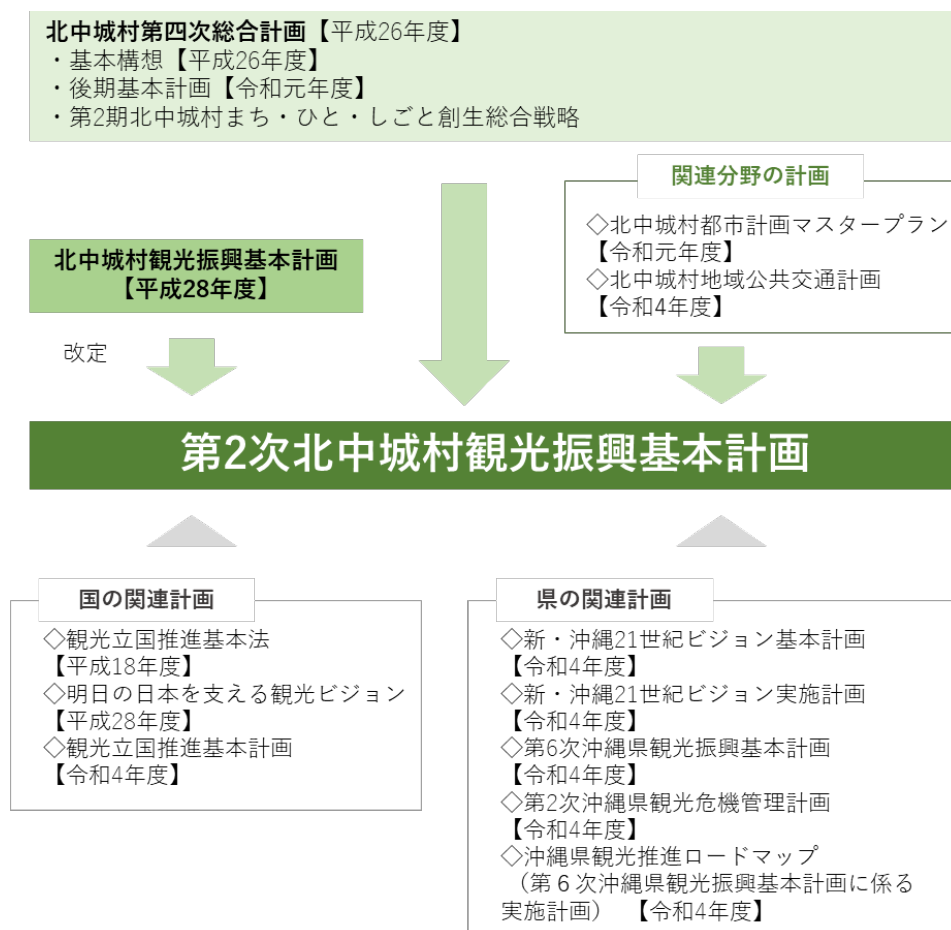
我が国では「観光立国推進基本法」を定め、観光の国際競争力の強化に努めるとともに、それぞれの地域が持つ特色を活かした魅力ある観光地づくりの推進を支援しています。観光産業は、沖縄県や本村のリーディング産業として、村民の雇用や暮らしを支えるとともに、経済における重要な振興発展に寄与しています。

本村の観光施策については、平成 28（2016）年 5 月に、「北中城村ツーリズムビジョン～健康度世界一のむら実現を目指して～」を目指して、今後 5 年間を計画期間とする『北中城村観光振興基本計画』を策定し、各種施策を展開してまいりました。

一方、計画策定後も 7 年が経過し、上位計画、関連計画等も改定が行われており、また、新型コロナウイルスの影響により観光需要の変化も起こっている状況となっているため、現状の社会情勢等に合った計画にする必要がありました。

そのため、令和 6（2024）年度から令和 10（2028）年度までの 5 年間を計画期間とする「第 2 次北中城村観光振興基本計画」を策定いたしました。

(2) 計画の位置づけ



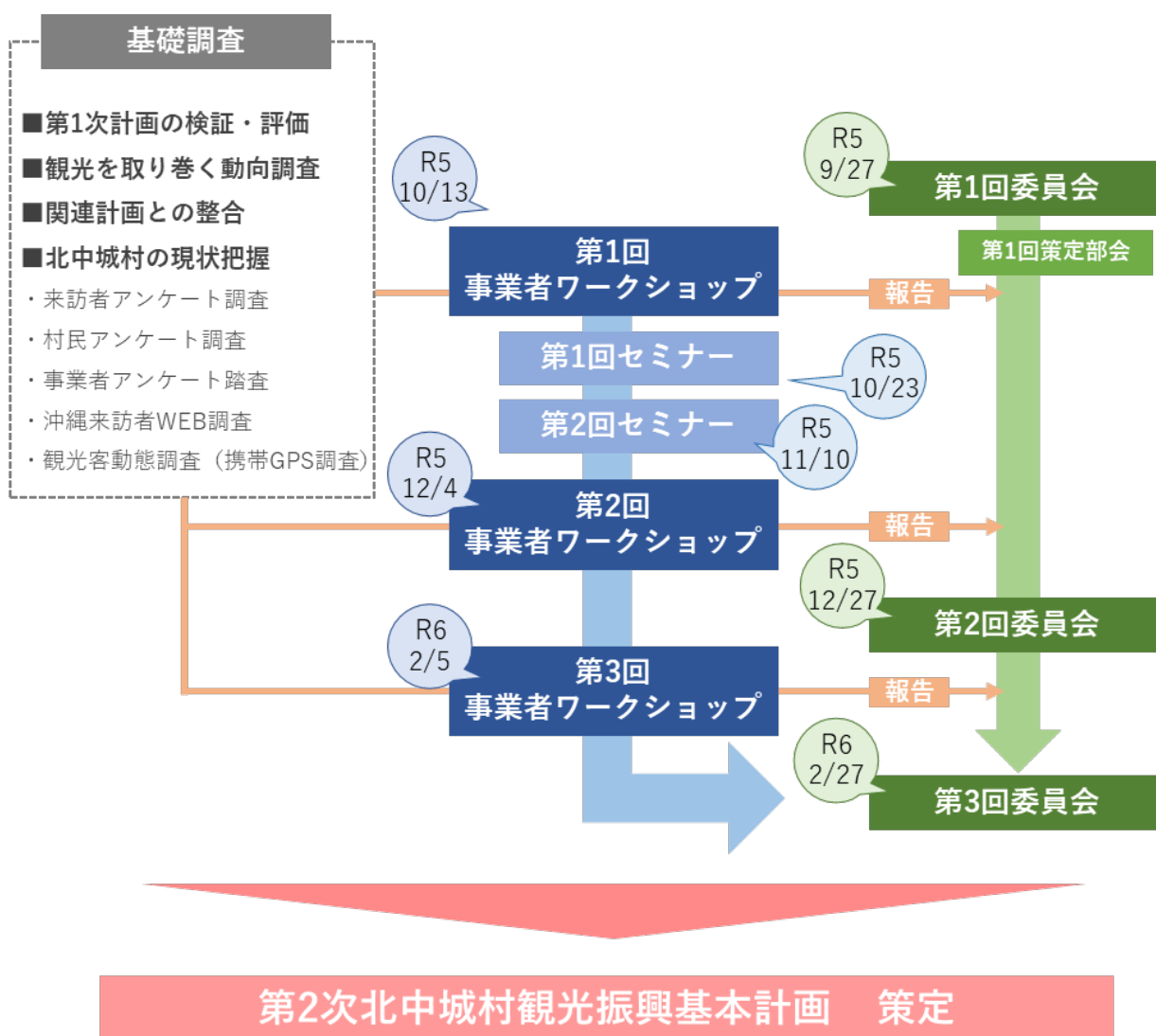
▲第 2 次北中城村観光振興基本計画の策定の位置づけ

(3) 計画策定の手順と体制

本計画は、基礎調査や本村の観光協会、商工会、宿泊事業者、観光サービス事業者、地域団体、有識者、庁内関係部署との様々な話し合いをもとに策定いたしました。

はじめに関係部局から前計画の施策の評価・検証を行うとともに、観光客や地域の求める観光振興のあり方や課題を的確に捉えるため、上位指針及び関連計画の整理及び観光動向調査を実施いたしました。

その調査結果を踏まえ、村民及び関連事業者・団体で構成された「北中城村観光振興計画事業者ワークショップ」において計2回のセミナーの開催及び計3回の議論・検討をするとともに、「北中城村観光振興委員会」にて、本計画に基づく各種施策の推進及び観光振興に関し必要な事項について協議し計画を策定しました。



▲第2次北中城村観光振興基本計画の策定の手順

2. 観光振興を推進する上での基本方針

(1) 観光振興を推進する上での課題

北中城村の観光に抱える取り組み状況や、近年の北中城村の観光の実態から、さらなる観光振興の実現に向けて、今後の取り組むべき4つの課題を抽出しました。

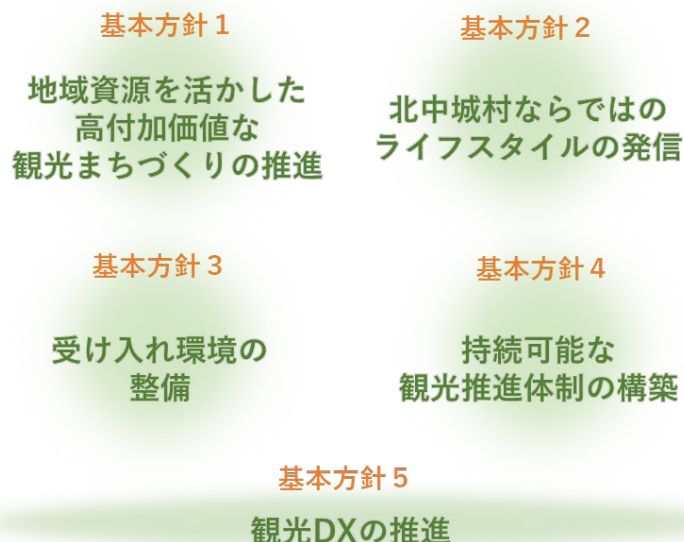
課題1	歴史・文化、自然景観を大切にしつつ、地域の暮らしの質の向上につながるための観光振興
課題2	北中城村の観光ブランドの構築
課題3	観光客の利便性向上に資する受入環境・体制の整備
課題4	体制の強化や関係者間の連携による持続可能な観光振興の推進体制の構築

(2) 基本方針

北中城村の観光振興を推進する上での課題やビジョン、基本理念を踏まえ、本計画の5つの基本方針を以下に示します。

本計画では、基本方針1～4を軸として推進していきますが、全体を包含する位置づけとして基本方針5を設けました。

基本方針1	地域資源を活かした高付加価値な観光まちづくりの推進
基本方針2	北中城村ならではのライフスタイルの発信
基本方針3	受入環境の整備
基本方針4	持続可能な観光推進体制の構築
基本方針5	観光DXの推進



（３）取組の体系

北中城村における観光振興の基本理念の実現に向けて、令和 6（2024）年度から令和 10（2028）年度までの 5 年間に取り組むべき、基本方針に沿った施策を以下に示します。

<取組体系>（5 つの基本方針 22 の施策）

基本方針	取組名	具体的なアクション（一例）
1. 地域資源を活かした高付加価値な観光まちづくりの推進	①北中城村の観光ブランドの確立	💡 北中城村観光ブランドの検討
	②高付加価値な観光体験商品の造成	💡 歴史資源の観光プログラムとしての活用 💡 夜間コンテンツの検討
	③ウェルネスツーリズム推進・確立	💡 EM 暮らしの発酵ライフスタイルを拠点として自然環境を活用したウェルネスツーリズムの推進
	④インバウンドの誘致の促進	💡 観光情報 HP のインバウンド向け情報強化 💡 受け入れ環境整備（観光パンフレット、案内板の多言語化）
	⑤他業種との連携・周遊促進	💡 福祉分野や農業分野など他業種と連携して観光コンテンツ造成
	⑥中部エリア連携方法の検討	💡 村外の近隣市町村との周遊ルートの検討
2. 北中城村ならではのライフスタイルの発信	⑦観光プロモーションの推進	💡 地域ブランディングのイベント・キャンペーン開催 💡 特産品の開発
	⑧「農を活かした福祉の里づくり」との連携	💡 農を活かした福祉の里づくりとの連携
	⑨地域の愛着・生きがいにつながる取組の推進	💡 地域と観光客が交流できる観光体験プログラムの検討 💡 ライカム地区における広報誌配布

基本方針	取組名	具体的なアクション（一例）
3. 受入環境の整備	⑩観光ガイドの確保・育成	💡 北中城村公認ガイド育成・マッチングの実施
	⑪教育旅行・企業研修の受入環境整備	💡 教育旅行・企業研修のプログラムの検討
	⑫安全・安心な観光地づくりの推進	💡 北中城村観光危機管理計画の推進
	⑬村内の移動手段の拡充と駐車場整備	💡 村外との移動手段の拡充 💡 村内の周遊の拠点となる駐車場の整備の検討
	⑭歴史・文化を活かしたまちづくり及び景観形成	💡 中城城跡や中村家住宅の景観維持・保全の実施 💡 中城城跡の城下町らしい歩道の整備を検討
	⑮ユニバーサルツーリズムの推進	💡 中城城跡や中村家住宅などのバリアフリー整備の推進 💡 ユニバーサルツーリズムの受け入れ体制の強化・育成
4. 持続可能な観光推進体制の構築	⑯安定的な財源の確保の検討	💡 宿泊税の導入検討
	⑰マーケティングの推進	💡 来訪者アンケートや住民満足度アンケートのデータの取得環境の整備 💡 データの分析によるマーケティングの推進
	⑱観光人材の育成、観光教育の充実	💡 北中城村グッジョブ連携事業の推進 💡 インターンシップの受け入れ
	⑲観光協会の機能強化及びDMO化に向けた取組の推進	💡 人材育成 💡 DMO 運営財源の検討
	⑳意見交換・連携できる場づくり	💡 事業者とのコミュニケーションの機会を創出
	㉑JSTS-D の導入に向けた取組	💡 自己分析の実施
5. 観光 DX の推進	㉒最先端技術の観光産業への活用検討	💡 村内飲食店及び主要観光施設におけるキャッシュレス化の推進 💡 自動運転技術、チャットボット、VR、メタバースの導入研究

3. 成果目標の設定

成果目標指標の設定にあたっては、村民、観光客、事業者の観点で、「①村民が居住することに対して幸せと感じる割合」「②観光客（県内客・県外客）の満足度」「③観光客（県内客・県外客）の消費額」と設定し、沖縄観光推進ロードマップ（令和 5（2023）年 3 月 30 日）の目標値の伸び率を参考に数値目標を設定しました。



成果目標指標

①村民が居住することに対して幸せと感じる割合	【村民】
②観光客（県内客・県外客）の満足度	【観光客】
③観光客（県内客・県外客）の消費額	【事業者】



数値目標

①村民が居住することに対して幸せと感じる割合

64.1%（R5 年度） ⇒ **77.6%（R10 年度）**

※現状値は、R5 年度村民アンケートの「『とても幸せ』と感じる割合」を設定。
※目標値は、沖縄観光推進ロードマップの伸び率（R6⇒R9）1.21 倍を参考に設定

②観光客（県内客・県外客）の満足度

【県内客】 63.4%（R5 年度） ⇒ **66.6%（R10 年度）**

【県外客】 64.1%（R5 年度） ⇒ **67.3%（R10 年度）**

※現状値は、R5 年度来訪者アンケートの「総合満足度の『満足』の割合」を設定。
※目標値は、沖縄観光推進ロードマップの伸び率（R6⇒R9）1.05 倍を参考に設定

③観光客（県内客・県外客）の消費額

【県内客】 10,994 円（R5 年度） ⇒ **12,000 円（R10 年度）**

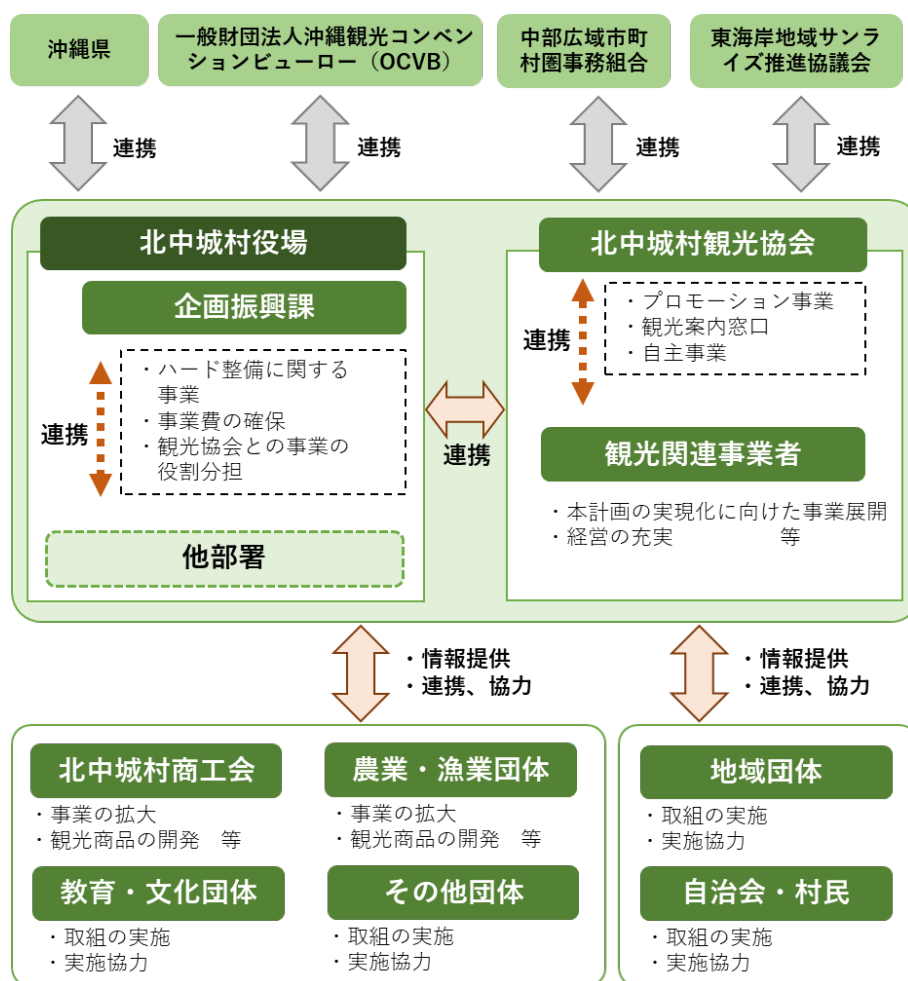
【県外客】 23,694 円（R5 年度） ⇒ **26,000 円（R10 年度）**

※現状値は、R5 年度来訪者アンケートの「村内での全体消費額」を設定。
※目標値は、沖縄観光推進ロードマップの伸び率（R6⇒R9）1.09 倍を参考に設定

4. 計画の推進

(1) 計画の推進体制

観光振興の推進は、基本理念である「地域の暮らしを大切に、村民も来訪者も事業者も幸せを感じる村」を目指して、北中城村役場と観光協会、観光関連事業者が中心となり、北中城村商工会や農業・漁業分野、教育・文化分野などの関連団体、自治会などの村民、地域団体が各々の役割を認識し、各推進主体間における協働と連携により取組を進めていく必要があります。また、沖縄県や OCVB とも連携を図るとともに、東海岸地域サンライズ推進協議会や中部広域市町村圏事務組合などの広域連携も図りながら計画を推進していきます。



▲観光振興計画の推進体制

(2) 計画の進捗管理

本計画に示した各取り組みは、「PDCA サイクル」の考え方のもと、進捗管理を行います。計画の管理・推進を担う、行政や観光協会を中心に PDCA マネジメントサイクル（計画⇒実行⇒確認⇒改善）を用いて、効率的かつ効果的に、着実な取り組みの振興を図ります。

また、取り組みの進捗や国・沖縄県及び北中城村の動向や変化に応じて、適宜、計画及び目標の見直しを行いながら、実態に即した取り組みを進めていきます。

第 2 次北中城村観光振興基本計画 <概要版>

令和 6 年 3 月

北中城村 企画振興課

編集・協力：株式会社オリエンタルコンサルタンツ沖縄支社

一般社団法人北中城村観光協会

株式会社アンカーリングジャパン